

東北地方太平洋沖地震被災地支援活動の記録

派遣職員 内田 達也

所属 IT政策課

1 派遣期間

平成23年 7月21日 ~ 平成23年 7月30日

2 派遣先及び主な活動場所

岩手県大槌町 (宿泊は遠野市浄化センター)

3 支援活動の内容及び活動の状況

静岡県現地支援調整本部要員派遣(第18陣)総勢24人の一人として、自分は大槌町役場に派遣され仮設住宅入居関係事務に従事しました。(第18陣では、大槌町役場に派遣された10人中5人が当時仕事が多かった仮設住宅入居関係事務に従事しました。)

具体的な仕事内容

- ・仮設住宅入居説明会の資料作り、説明会当日の受付係・案内係・コピー係など
- ・仮設住宅関係の電話対応、接客
- ・仮設住宅への備品の搬入や広報「おおつち」の配布 など

(大槌町役場の仮設住宅担当職員の人数が少ない上膨大な仕事に追われているため、仕事の引き継ぎは主に前の隊(17陣)の仮設住宅担当と行いました。)

仮設住宅の現状・経過

応急仮設住宅入居者抽選会(第3回)を開催し、町内48カ所住宅2,105戸への入居者が決定し、入居者説明会を平成23年7月1日から順次行っていました。

キャンセル、新規申し込み、仮設住宅に当選したが別の場所に変更してほしいなど様々な要望があるため、7月末現在調整中です。

4 活動を通じて感じたこと

印象に残っていることは、初日に宿泊地である遠野から大槌町に向かっている際、釜石市の津波被害にあった街並み見た時の衝撃です。釜石駅までは、普段の見慣れた光景なのにガードをくぐって、港に近づいただけ、瓦礫ばかりの廃墟となった街並み・・・言葉が出ませんでした。ニュースで見る以上に、津波被害の甚大さを感じました。

大槌町役場において、自分は仮設住宅入居関係の事務として、仮設住宅に資材を運び込み、電話対応、窓口での対応などを行いました。そのおかげで、直接町民の方と、話したり、苦情や要望を聞いたり、少しでも本当の現状を知れたことが良かったです。こういった混乱した状況なのでちょっとした行き違いが大問題になるということを痛感しました。

(例 仮設住宅入居説明会の際町民に鍵を渡したが、実際には仮設住宅は完成していなく実際に入居出来るのは1週間後。町民の方は、すぐに入居出来ると思っていてトラブル)

仮設住宅関係の仕事はたくさん山ほどあるのに、それを理解し指示できる大槌町役場の職

員は様々な仕事に追われ、静岡県からの派遣職員にはなかなか指示出来なく、僕らは時間をもて余してしまう時間もあるという歯がゆい思いをしました。

また他の市町や県職の方と一週間寝起きを共にして、一つのこと（被災地支援）を目標に仕事をするということは、今後めったにないことなので、貴重な経験をさせてもらえたと思います。この被災地派遣に参加して、本当によかったです。市の行政マンとして、今回の自分の目を見て、耳で聞いて、感じたこと・経験したことを今後の仕事の中で、万が一東海大地震が発生し混乱に陥った時に発揮していきたいです。

5 支援活動から見た被災状況など



仮設の大槌町役場
(大槌町役場が津波被害で使用できないため大槌小学校に設置)



吉里吉里仮設住宅



静岡県仮設住宅班の仕事場の様子(大槌小学校家庭科室)
(事務作業場所が限られているため、津波・火災被害にあった大槌小学校を使用)